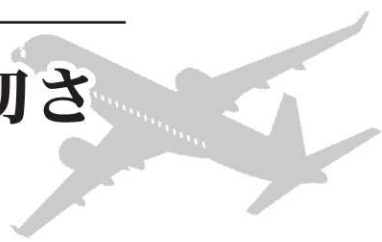


世界から学ぶ『平和』の大切さ

～ 友好の架け橋になった高校生たち～



国立図書館で与謝野町との交流の資料を見学

平成4年から高校生の相互派遣交流が始まり、14回目となったアベリスツイス高校生派遣事業。今回は、与謝野町内の高校1、2年生8人と山添町長が英国・ウェールズのアベリスツイスを訪れました。高校生たちはホストファミリーや地元高校生・大学生との交流を深め、山添町長は行政機関の関係者との懇談に加え、両町の友好関係を今後とも継続していくため、友好提携に関する協定書に署名しました。

※友好協定の締結に関する内容は、1月10日発行の広報よさの1月号をご覧ください

現地で得た
学びや経験は
かけがえのないものに



フランク・エバンスさんのお墓を訪れた高校生と現地の方々

11/12/2023



おたあやこ
太田 絢子
宮津天橋高校
加悦谷学舎2年

戦争に対する考え方

この事業に参加し、与謝野町とアベリスツイスの交流のことを多くの人に知ってもらいたいと思いました。フランク・エバンスさんをきっかけに始まったこの交流は、私に多くの学びをくれました。実際にアベリスツイスを訪れ、平和記念パレードへの参加やエバンスさんのお墓への献花、交流した方々との思い出の中で、戦争に対する考えが変化しました。「アベリスツイスでの思い出を未来に残していきたい」「この交流を通して出会った人たちと再会したい」そういった思いが、戦争をしないでおうと思うきっかけになることも知りました。

私はこの経験をいかし、多くの方が平和について考えるきっかけになり、両町のことを知ってもらえるような活動をしたいと思います。このような素晴らしい経験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。



にしむら
西村 れい
宮津天橋高校
加悦谷学舎1年

コミュニケーション

この事業で一番心に残ったのは、現地の方々との交流です。事業に参加した理由の一つとして、海外に興味があり外国の方とそこの言語で話してみたいと思っていました。初めての海外で不安な気持ちもありましたが、成長できる良い機会になりました。

アベリスツイスへ着いたあと、数日間にわたってホストファミリーと交流しました。交流を通して積極的に意見を言う力がつきました。私は優柔不断な部分があるのですが、言語が違う環境の中であいまいにしてしまうと、相手を余計困らしてしまうため、断ち切って意見を言うよう努力していました。対面する前はうまく話せるのか、まず会話が成り立つのかとも心配でした。でもうまく話すことができるかという技術面よりも、持っている知識でどれだけ話しかけることができるかが大切だと感じました。



ほんもと
根本 暎
宮津天橋高校
宮津学舎2年

私を変えてくれた アベリスツイス

この事業を終えて振り返ってみると、不安や緊張がありながらも自信や大きな感動を得た充実した日々だったと思います。また、与謝野町に住んでいるだけでは会えないことのできない、さまざまな国籍、多様なバックグラウンドを持つ方々と交流したことで、新たな発見もありました。

私のホストファミリーはすごく日本の文化に興味があり、折り紙と一緒に作ったり、みそ汁やお菓子をプレゼントすると、すごく喜んでくれてうれしかったです。日本の文化が遠く離れたアベリスツイスの地でも愛されていることを知り、日本人であることをすごく誇りに思いました。

帰ってきてから数カ月経った今も、写真を何度も見返してしまうくらい楽しい思い出ができました。多くの方々のご支援があったからだと思います。ありがとうございました。



ほりけんしろう
堀江 健士朗
海洋高校2年

架け橋の一員として

この事業を知ったきっかけは、以前、姉が参加し与謝野町とアベリスツイスの関係を教えてくれたことです。その際にフランク・エバンスさんのことについて教えてもらい、興味を持ち参加しました。

参加する中で、エバンスさんの伝えたいことや平和について理解できた気がしました。かつて戦争の中で悲惨なことがありましたが、今は平和な社会になりこのように交流が行われています。

この事業を通して、平和のことについて深く知ることができました。この事業で関わることのできた方々たちとのつながりに感謝し、ずっと大切にしていきたいです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



もりしたあいか
森下 彩咲
宮津天橋高校
宮津学舎2年

アベリスツイスでの 体験を通して

アベリスツイスではたくさんのご経験をできました。初めての海外で楽しみもありましたが、ホストファミリーとのコミュニケーションや現地での生活に不安もありました。しかし、ホストファミリーも現地の方も優しく接してくれたので、楽しく過ごせました。お互いの国や町のことについて交流しながら一緒に行動する中で、学んだウェールズとの文化や習慣の違いがたくさんありました。

また、この事業がきっかけで、フランク・エバンスさんのことや与謝野町とアベリスツイスの関係を知りました。そして、この交流の始まりである戦争や平和への思いに触れることもできました。この交流が続いていくことが、エバンスさんの願った平和へとつながっていくと思います。事業を通して得た学びやつながりを忘れず、これからはいかしていきたいと思っています。

約2週間のアベリスツイスの滞りに加え、事前・事後研修を含めると約4カ月間、高校生たちは与謝野町とアベリスツイスについて学んできました。この派遣事業を通して何を学び、何を感じたのか。高校生たちの言葉で振り返ります。

※広報紙掲載用に一部編集しています

高校生たちは今、何をおもう。